

令和5年度生野区区政会議（第1回全体会）
主なご意見等（要約）と区の考え方、対応

開催日：令和5年7月27日（木）

開催場所：生野区役所 6階 大会議室

カテゴリ	主なご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
地域	地域の行事に携わっているが、小学生を対象とした行事をしても、最近は子どもを連れて来てすぐに帰る保護者が多い。できれば、保護者も子どもと一緒に参加してもらって、コミュニケーションしたり、お手伝いしてもらえたらと感じる。	大阪市では、市政改革プラン3.1において、地域の実情や特性に即した地域運営を促進するため、地域のことは地域で決める、との方針のもと設立された、自律的な地域運営の仕組みである地域活動協議会（まちづくり協議会）への支援を行っています。 また、地域活動協議会補助金では、活動内容を指定しない補助、いわゆる運営補助という他の補助金とは異なる特例が認められています。 人的支援においては、活力ある地域社会づくりに向けて、自律的な地域運営が実現するよう、本市から事業者に委託し、中間支援組織である「まちづくりセンター」を活用した支援を行っています。 とりわけ、新たな担い手の確保の課題については、他地域の取組事例の情報提供をするなど、引き続き区役所とまちづくりセンターが連携して支援を行います。 また、町会の加入促進についても、町会の意義についての理解促進をはかるなど情報発信の強化について取り組んでまいります。
	巽東地域は高齢化が激しく進んでいるが、夏祭りを開催した際に、多くの子どもが集まった。普段は地域外の学校に通っているが、夏祭りいうことで帰省して、おじいちゃん、おばあちゃんのとともに参加してくれた。地域から出て行った人が戻ってこれるような、そのようなまちづくりができればいいと感じる。	
	この間、町会で花火大会をして1,500人の参加があった。参加者からは好評で、とてもやりがいのある企画だった。こういったことも含めて、少しでも生野区に住んでみたいという人が増えるような行事を考えていくのもいいかなと思った。 ただ、地域の担い手不足問題もあり、どのように若い人を地域に引き込むかが課題である。	
	学校の統廃合により、PTAと地域のつながりが明らかに薄くなった。これまで地域の夏祭りの担い手として、PTAの人たちも参加してくれていたが、学校が閉校したことによって、参加してもらえなくなった。どの地域でも抱えている課題だと思うが、地域の新たな担い手をどうつくっていくか、検討していったほしい。	
	コリアタウンは生野区の観光地としてにぎわっているが、町会運営上は好ましい状況であるとは言えない。コリアタウンのほとんどのお店が、オーナーや経営者は区外にいて、雇われ店長や雇われ店員で運営されている。つまり、その地域に住んでいないため、町会への入会案内やお知らせを回覧しても、なかなか届かない状況である。	
	まちの未来部会のなかで、町会での人材不足の問題について、生野区で人材バンクをつくったらどうかという意見があった。例えば、住民登録の手続きの際にあわせて人材バンクの案内や登録も行うといいのではないか。	
道路の安全対策	生野西の生野未来学園の前の道について、車道を狭くして歩道を広くし、ブロックや白線がついたが、これで本当に子どもを守れるのか。ポールなどを立てて、車に分かるようにしたほうが、より子どもを守れるのではないか。縁石のブロックは自転車のペダルがぶつかって、かえって危ない。	ご意見については、道路を所管している建設局と共有させていただきます。

カテゴリ	主なご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
教育	大阪市の塾代助成事業はすごい良いツールだと感じており、色々なジャンルの習い事で使えるので、それをもっと充実させ、生野区として子育てや教育に頑張っているということになると「生野区に来て良かった」など思っていただけることになり将来的に良いのかなと思っている。	生野区では、様々な家庭環境で育つ子ども達へ未来を生き抜く力を育成するために、学校を通した多様な学びの機会の充実を図るとともに、子ども達の学力や学習意欲、個性や才能を伸ばす機会の提供などを行っているところです。今後とも、生野区の教育環境を充実するための取り組みを引き続き行っていきます。
	行きたい高校ではなく、行ける高校に進学したことで、高校を退学してしまう生徒も多い。退学した後、すぐにアルバイトや就職するというのではなく、復学できたり、新たな学校に通うことができるといった再チャレンジができるということをしっかり広めてほしい。やはり、就職の条件として高卒以上の資格を求められることが多いので、行政や地域で守ってあげられたらと思う。	大阪市では高校を中途退学した後の生活や希望を支援するため、高校の入学者選抜や編入制度をはじめ、新たな生活のための様々な相談機関をとりまとめ、ホームページで紹介しています。 ※参考：ホームページ二次元コード⇒ 
防災	これまで、くらしの安心・安全部会において、外国人の方が被災されて避難所に来られたとき、受付の担当が困らないように、多言語版の案内を用意してほしいとお願いしてきたところ、今回、避難所開設キットの中に5か国語の多言語案内指さしボードを配置してもらった。ありがとうございます。	災害が発生した際は、屋外にいる方向けに小学校や公園等に設置している防災スピーカーによる災害情報の放送をおこなっています。しかしながら、屋内にいる方については、防災スピーカーのみでは聞き取りにくいいため、大阪市防災アプリや区役所ホームページ、エリアメール等で周知を行うとともに、ラジオやテレビ等など様々なツールによりお知らせしています。今後も、地域の方々に災害情報が適切に伝わるよう努めていきます。
	災害の際に、学校にあるスピーカーで避難等の放送がなされるが、学校から離れている地域では一切聞こえないので、音で教えてほしい。例えば、地域連動型警報装置みたいなものがあって、これが鳴ったら避難するというふうに、地域住民に分かるように伝える方法を考えてほしい。	
支援（子育て）	子どもを持っている保護者の相談について、相談窓口や子育て支援センターに来てくれる人はいいが、家庭内でしんどい思いをしている人をどう拾って支援につなげていくかが課題である。	出生から4か月の間に実施される乳児家庭全戸訪問事業、定期乳幼児健診（3か月・1歳半・3歳）、4歳児訪問事業など、年齢の節目には必ず子育て支援に関する情報提供を行うと共に、子育て相談ニーズの有無を把握するよう努めています。 また、就学後については小中学校の気づきのもと、支援の必要があると予想される家庭については学校から区へ繋いでいただき、必要に応じて相談や支援を行っています。
支援（高齢者）	独り暮らしの高齢者がケガなどして生活に支障がが出たとき、誰に相談したらいいのかわからないという人は多い。回覧では見てもらえないので、社協から、高齢者の自宅にパンフレットをポスティングしてもらっているが、もう少し目にとまるような方法があればいいのにとと思う、	高齢者の相談窓口である地域包括支援センターやランチ（総合相談窓口）では、「包括だより」やホームページ、Youtubeへの掲載や、チラシ、啓発物品の配布など、積極的に周知活動を行っています。また、区役所でも「広報いくの」やホームページなどの周知活動に努めています。引き続き、地域包括支援センター等と連携して、効果的な周知方法について検討していきます。
多文化共生	生野区は外国人の方が多いが、外国人の方だから、いろいろと話ができないというのではなく、タイアップして、一緒にまちづくりができたらいいなと思う。担い手不足の問題についても、今後は外国人の方々の力を借りていくということを考えていかないといけないと思う。	ご意見いただきありがとうございます。外国人住民も共に地域を支える一員になってもらう必要があると考えています。地域のイベント等を通してお互いに関心を持つところから始めるなど工夫が必要だと思います。現在生野区では、「やさしい日本語から、つながろう」という取り組みを行っております。「やさしい日本語」を通じて、まちの中で人と人とのつながりが、広がっていくことをめざしています。行政としても地域と協力して、「やさしい日本語」を普及させていきたいと考えていますので引き続きよろしくお願いします。

カテゴリ	主なご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
シティプロモーション	地域の活動や相談・支援などのさまざまな情報を、どうまとめあげていくのかが課題だと思う。地域の中で取り残されている人が、自分に合った情報をうまくキャッチできたら、一歩踏み出せるきっかけになることもあると思う。情報からきっかけを得て、それから人と人とのつながりに発展していく、そうした流れをつくることが重要である。	ご意見いただきありがとうございます。様々な情報の中から、その方にとって本当に必要な情報を入手できるようにすることはとても大切なことであると思っています。生野区専用アプリとまではいきませんが、大阪市におきましては「大阪市公式LINE」に登録していただくと、「子育て」「ごみ」「各種手続き」「市へのお問い合わせ」「新型コロナ」のメニューがあり、メニューをタッチだけで容易に情報にたどりつくことができます。また、どの区のどのような情報を受信したいか希望がありましたら、基本情報登録で対象区や対象の情報カテゴリを受信設定しておくと、設定した区の希望する情報のみ受信することができます。たとえば、区は「生野区」、情報カテゴリは「こども・教育」をチェックしておくと、生野区のこども・教育関係情報が自動受信となります。今後、広報紙やSNS等において、区民の方に「大阪市公式LINE」の案内をしていく予定です。
	生野区民専用アプリなどをつくって、質問や困りごとなどを入力すれば、こういったことができるのかこういった窓口があるというふうに、答えが返ってくるような、解決の方向へリードしていけるようなツールがあればいいと思う。携帯やスマホがない人に対しては、振興会館とか、憩いの家とかでそういったものが提供できると、全体的にサポートが行き渡るのではないかな。	
区政会議	子育て中の人々や子ども、若者は、支援やサービスの利用対象者として位置づけられている向きが強いが、同時に、参画主体としての側面っていうものを強めていくということも考えられないか。対話などを通じて、当事者の意見を聴き、反映させていくといった取組が、生野区で先進的に進んでいくといいなと期待している。例えば、出前区政会議みたいな形で、各委員が関わっている地域の居場所、活動拠点、学校等に出向いて、区役所と住民が対話をしていく、そういう場をつくっていくという形がより進んでいけばと願っている。	区政会議の運営に関する貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。区政会議の資料や内容は、区のホームページに掲載しておりますが、より区民の皆さまに届くための工夫が必要であると考えています。区政会議でどのようなことが議論され、それが施策にどのように反映されたのか、区政委員の皆さまをはじめ区民の皆さまにお伝えするために、定期的に広報紙やSNSを通じて区政会議の情報発信を行っていきたいと考えています。令和5年度につきましては、広報いくの（令和6年1月号）で区政会議の特集記事の掲載を予定しています。
	全体会や各部会で出た意見に対して、区の考え方や対応ということで回答していただいているが、文章の締め「努めてまいります」や「進めてまいります」、「図ってまいります」という表現が多く、その後どうなっているのかということが分からない。具体的な事例を挙げて、区政会議の場で説明してもらえると意見を出したかいがある。	
その他	生野区をよくしていこうという人たちがいる一方、モラルに欠ける方も多くなってきている。空き地へのごみの不法投棄や、交通ルールを守らない、タバコのポイ捨て、ながらスマホなど、モラルに欠ける方も多くなってきている。また、家の横にある側溝について、掃除しないために、土がたまって草が生えてきて、水が流れなくなっている。掃除していただきたい。	おっしゃるとおり、ごみ出しや交通等のルールについて守っていただけない方が一定数おられます。自転車の交通マナーについては、広報いくのなどで注意喚起を呼びかけ、マナーアップ向上につながるよう努めています。根本的な解決が難しい案件ですが、行政としても引き続き周知を行っていきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。